

園長通信

イメージキャラクター

ふたぶう

高槻双葉幼稚園50周年を記念して誕生しました。幼稚園で子どもたちを見守ってくれています！



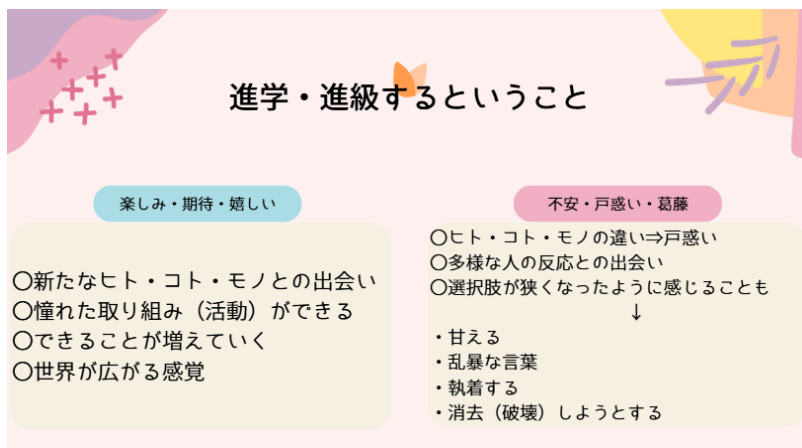
2025.3.01

園長 岡部 祐輝

進学・進級の季節

2024年度も3月を残すのみとなりました。この1年も皆様にお支えいただき誠にありがとうございました。3月を終えると、子どもたちは1つずつ学年が上がり、年長の子どもたちは小学校への進学となります。

子どもたちは進学・進級のこの季節、どこかワクワクする気持ちとどこか不安な気持ちが入り交ざった日々を過ごしています。（以下資料参照ください）



自分自身が成長とともに世界が広がっていく感覚、できることが増えていっている感覚を少しずつ持ち、それらを支えに進学・進級していく一方で、上記の通り、「**以前はこのような姿がなかったのにどうしてだろう？**」と急にこれまでと違う姿を見せることもあります。それは何となくどこか落ち着かないような行動が見られるということもあります。

このような時期に私たち大人が、「**勇気づける言葉**」をどれだけ子どもたちにかけていけるかが大切になります。例えば、「テストで100点取ってすごい！」という言葉は誉め言葉でもありますが、同時に「**ほめられることが行動の目的になる可能性がある**」、「**次も100点とらないといけないと思う可能性がある**」などのことが考えられます。（注：絶対にこの言葉はどんな時もNGですという文脈で書いているわけではありません。以下とあわせてお考えください）

なので、「**できたこと、結果に焦点を当てるだけでなく、やろうとしていたことや過程に焦点を当てること**」や、「**子どもの行動が周囲の人に良い影響を与えていたこと**（例：あなたが~してくれたことでみんな笑顔になったよ）」などを伝えていくことが、勇気づけたり、次もやろうとする意欲を支えることにつながります。

また、**これまで子どもたちが乗り越えてきたことや経験したことをともに振り返り、その経験や力を活かせば、これからの不安な出来事を乗り越えていくことができる**のではないかと、気づけるような援助・支援も重要です。私たち人は、周囲に**資源（リソース）**がいろいろとあります。それは、自分が持っている資源と、外的な資源（例：誰かが私にやさしい言葉をいつもかけてくれる）が存在します。それらに気づくだけではなく、活かしていくためには、遠い未来、遠い目標だけを指し示すだけではなく、「**マイルストーン**」と呼ばれる大きな目標に進んでいくための中間地点での

目標を定めていくことで、多くの「できた」、「乗り越えた」を経験することができます。（スモールステップで取り組みましょう という言葉がありますがそれも前述の説明と私の中では同義です）

進学・進級に際しみられる子どもたちの様々な姿に、私たち園も、肯定的な気持ちが高まるように、そして安心感が高まるように、既述のことを意識して言葉かけを行っていきたいと思います。

関係性の中での育ちがこれからの自分を支えていく

幼児教育では、子どもと子ども、子どもと保育者など、関係性の中で育つことを大切に、それらをはぐくまれる環境構成や、保育者の手立て（言葉かけ）などをよりよくする工夫をしています。

いわゆる一斉に保育者が子どもに指示をして、子どもが個別に作業、活動するようないわゆる「**一斉保育型**」だけでは、そもそも子どもどうしで対話がない、少ないという状況になったり、考える余白が子どもたちに限りなく少なくなるなどのことが考えられます。一方で子どもたちが自由に遊びを選択し、子どもどうしが自由に対話し、遊ぶ方法では、子どもどうしの**協力、競争、協同、そして時にはいざこざや葛藤**なども見られるなど、関係性が盛んにあるからこそ、見られることが多くあります。このようなことから、当園では、保育者の話を一方的に聞き続けることや、意図や意味がなく多くの時間待たされるようなことは保育の中でできる限り工夫するようになってきました。

しかし、上記のことは時に、「ずっと自由でいいのでは」、「それでは子どもが好き勝手、気ままにしているだけではないのか」という思いを持たれることもあると思います。例えば、絵本の読み聞かせなどは、子ども達全体に向かって保育者が読み聞かせをするという構図になりますが、同じものをみんなで見てみんなで味わうことも重要であると認識しています。「**個別**」、「**自由**」、「**みんなで**」は**幼児教育においてバランスが大変重要**であるということもこれまでの研究結果でも出ています。

ここで3歳児の子どもたちについて考えたいと思います。3歳児によくみられる姿として、以下のことが挙げられます（注：個人により違いがあります）

| | |
|---|---|
|  | <p>3歳児に見られる・活動の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・ 個の遊びが輝く時期・ 探求／探究活動に対する個々のこだわり・ ごっこ遊びなどへの関心の高さ・ 「ね、見てみてすごいでしょ!？」・ 自己選択できる環境・ 集団をなんとなく面白がる・ イメージの基礎を自分なりに作っていく・ 創造－破壊を繰り返す |
|---|---|

このような姿は保育の中では、「**一人で黙々としたい遊びに没頭する**」、「**先生みてみて、わたしがやったんだよ、すごいでしょと伝えに来る**」、「**一見大人の価値観ではわからない論理で作品などを作り上げる**」などのことが例として考えられます。

しかし、1年近くが経過する中で、「みんな」の中で過ごす経験をしてきた子どもたちは、強制された形ではなく、自ら他児や「みんな」とかかわろうとしたり、なんとなく「みんな」で楽しい雰囲気を楽しんだりするなど、クラスとして遊び方が変化してきています。



(「10になったら変わってね！」と順番を待つ姿)



(みんなで絵の具で色を楽しむ。「みんな」で何となく楽しさを感じている)

上記のような変化、成長は数値化して、～点が、～点になったというようなものではありませんので、とらえることが難しいものです。しかしこのように、特に遊びの中では、**「個別で見たときの育ち・成長」と「関係性の中で見たときの育ち・成長」**を別の視点で意識的に見ることで、子どもたちの成長・育ちが多角的に浮かび上がってきます。

自分から「みんな」の中で自分なりの方法で関係性を作ろうと模索していくこと、チャレンジしていくことは、これからの価値観やライフスタイルなどが多様化していく社会の中で、調整していこうとする力の礎になるものと考えています。



【1年間の御礼】

令和6年度も皆様にお支えいただき、保育を進めることができました。当園ではこの園長通信をはじめ、Instagram、在園児皆様には保育のドキュメンテーション（お便り）などで、できる限り保育中の出来事の紹介だけでなく、その行動、活動の意義や意味、ねらいなどをご紹介できればと考え、行ってきました。次年度もより一層、皆様に保育の中での育ちや、子どもにとっての意味などを分かりやすくタイムリーにお伝えできればと思います。1年間ありがとうございました。



【お知らせ】

私事にはなりますが、この3月、4月に2冊の書籍を出版いたします。

(タイトル)

「なんとなくをひとつひとつ!保育のABC(環境・活動・かかわり)見直しガイドBOOK: 「保育環境評価スケール」活用法」

埋橋玲子(監修, 編集), 岡部祐輝(編著)

(本の内容)

アメリカで開発された「保育環境評価スケール(ECERS)」に沿って、そして日本の幼稚園教育要領など要領・指針と合わせて、保育環境や保育内容などで大切なことを観点・項目ごとに説明をしています。ちなみに当園の保育環境もこのECERSに基づき、これまで考えてきました。

(タイトル)

「保育現場は園内研修とマネジメントで変わる!: 主体的・対話的で深い学びにつながる園づくり」

鈴木正敏(著), 亀山秀郎(著), 岡部祐輝(著), 阿部能光(著)

(本の内容)

3つの幼稚園・こども園の保育のこれまでの変革と取り組みについて書かれており、その中でどのような工夫を行ってきたのかを3園の園長が経過とともに記述しています。加えて、3園に園内研修などで講師としてかかわっていただいている兵庫教育大学大学院の鈴木正敏先生より、今の教育・保育で大切に考えられていることや、リーダーシップ、組織づくりの中で大切になることなどの解説が記述されています。私の担当章では、当園のこれまでの歩みとその変革の背景(環境構成や園内研修でどのような視点で取り組んできたか、行事のねらいの再検討など)、子どもの姿の変化などを書いています。

ご関心のある方は是非ご覧ください。